



写真1 サワガニを食べるオットンガエル



写真2 スダジイのドングリを食べるサワガニ

いきものたちの意外なたべもの ―奄美群島探訪記―

森林研究部門 野生動物研究領域

主任研究員 巨悠哉

わたしたち人間と同じように、自然に生きる動物たちも何かを食べて生活しています。ある動物が何を食べているのかを知っていれば、その動物がなぜそこにたくさんいるのか、あるいはなぜいないのかを考える基本的な手がかりとなります。また、一度いきものどうしのつながりを知ると、ある動物を見るだけで、まわりの自然の見えかたもこれまでとは違ったものになるでしょう。ここでは、私がこれまで研究を進めてきた奄美群島で目にしてきた、いきものたちの意外なたべものの話をしたいと思います。

まずは、大型のカエル、オットンガエルです（写真1）。オットンガエルは、奄美大島と周辺の属島にしか生息しない珍しいカエルで、体長は12 cm ほどになります。写真は奄美大島の林道



写真3 オオムカデを食べるアマミサソリモドキ

で出会った個体ですが、何やら口からとげ状のものが飛び出していて、じっくり観察すると、それは少し動いていました。実は、サワガニを捕食した直後で、口に入りきらないカニの足が飛び出していたのです。カエルという昆虫食であると知られているかもしれないませんが、本当のところは、特に昆虫を選んで食べるわけではなく、口に入るものは何でも食べるのです。サワガニが棲む水場周辺で暮らしているオットンガエルは、当然ながら、サワガニをたくさん食べて暮らしているわけです。

食べられる側としてのサワガニの話をしましたが、そのサワガニも意外なものを食べていました。写真は徳之島で撮影したドングリを食べるサワガニです（写真2）。うまく両腕でスタジイのドングリをハンドリングし、かじりやすそうな先端から器用に口に運んでいました。奄美群島では、スタジイのドングリがさまざまな動物の餌となることが知られています。サワガニも依存しているようです。スタジイのドングリは、年によって豊作や凶作がありますので、サワガニの暮らしもこれに大きく左右されているのかもしれない。

最後は、アマミサソリモドキがオオムカデを食べている瞬間です（写真3）。とはいえ、サソリモドキといういきものの存在を知っている人はあまりいないと

思いますし、そもそもこの写真をみても、どちらがどちらを食べてるのかすら判断することは難しいかもしれません。アマミサソリモドキはサソリに形が似ていて、クモ綱サソリモドキ目に属しています。世界では120種ほどが知られていて、日本には九州から沖縄諸島に生息するアマミサソリモドキと、先島諸島から台湾に生息するタイワンサソリモドキが生息しています。奄美大島の山中で遭遇した際も最初はよく状況が分りませんでした。よく見ると、アマミサソリモドキがオオムカデの頭を抱え込み、むしゃむしゃ食べている一方で、ムカデは必死に逃げようとしている現場でした。ムカデという強力な毒を持って、土壌動物の王者というイメージがありますが、さらに上がることがわかります。

自然探訪、いかがでしたでしょうか？

当所ホームページには「自然探訪」コーナーがあり、月替わりで、樹木、動植物、微生物、森林、土壌、気象など、森林をとりまく非常に広い範囲の話題を提供しています。よろしければぜひ当所ホームページをご覧ください。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/snap/list.html>